

入選 岐阜県 渡邊様（高校生 女性）

「それはおばあちゃんの年金だから、いらないよ。」

そういつて私の妹は、私の祖母からのおだちんを断った。私には祖母と祖父がいる。2人とも、もう七十歳以上になるお年寄りだ。祖父は昔、教員をしていたため、定年退職した今では年金と、二人で農業をして生活をしている。そんなある日、妹が祖母から頼まれた買い物から帰ってくると、ごほうびだと言って祖母が五百円を渡した。しかし妹は、それをきっぱりと断った。「それは年金だよ。」と言いはった。まだ小学四年生の妹が年金という言葉を知っている。私は妹の知識と態度にすごいと思った。それと同時に、年金というあやふやな物について、私はどこまで知っているのだろうか、と疑問に思った。年金は大人になれば誰でももらえる。あたり前の物。そう理解し、知ったつもりでいた。

そんなある日、高校で「年金講話」という授業があった。年金についてなら、よく理解していると思っていた私だったが、授業を受けると、驚くことばかりだった。年金をもらうためには、二十歳から払わなくてはいけない事、年金の中には障害年金もあるという事を知った。そして、私が一番驚いたのは、お金をしっかり納めないと、将来年金がもらえなくなってしまうという事だった。今まで年金は、誰にでももらえる、というように思っていた私は、初めて年金という物をしっかりと理解していないと知った。そして、年金という物はあたり前のものではなく、もらえる事自体が、ありがたいことなんだと思った。家に帰った私は、父と母がどのような年金に加入しているのかを聞いたり、祖母や祖父と年金について詳しく話したりした。話を聞いたりしてみて、年金は、祖父母にとって大切な役割りをしていることを知った。祖母は目を細めながら、「年金がなかったら、私達は生きとれんでね。本当、ありがたいんやよ。」と、うれしそうに話してくれた。年金という言葉を理解してる妹にも、簡単な説明をしてあげた。少しはわかってくれたようで、「すごいね」と、笑いながら言っていた。

今、日本全国で年金で生活している人は、どれくらいいるだろうか、高齢社会の中、年金で生活している人達はたくさんいると思う。腰を痛めてしまって

いる人。一人では生活できない人。収入がほとんどない人。そういった人達にとってみれば、年金はかせない一部ではないのだろうか。今回、私は年金講話ということを通じて、十六歳になって初めて、年金の必要さ、大切さを知った。でもまだ、年金について知らない人や、私のように間違った理解をしている人、そのまま大人になっていく人など、多くいると思う。しっかりと多くの人が、あとから後悔しないように、若い人達にも知ってほしいと思う。これからの日本国民がきちんとした生活を送っていけるように、年金のことを、しっかり知ってほしい。